

タイの東レグループは繊維など既存事業に加えて、新規事業を含めた幅広い事業展開で成長を目指す。その核となるのがタイ事業を統括するトーレ・インダストリーズ・タイランド（TILH）。タイの国際地域統括本部の制度を活用することで、税制面などでの優遇を受けながら4月から実質会社として再スタート、事業範囲を広げている。

（高田淳史）

これまで専任は「野村良助社長1人だったが、4月からは30人体制に拡大。エンジニアリング、人事・総務、CSR（企業の社会的責任）、ファイナンス、マーケティングなどで人員

60周年機に事業を強化

川越政 東京、大阪で単独総合展

17年に創業60周年を迎える服地コンパーターの川越政は、テキスタイル事業とアパレルOEM（相手先ブランドによる生産）事業に力を入れる。年明けには東京、大阪で単独の総合展を開き、開発力や販売機能の優



素材開発とともに重視する製品OEM提案

位性を発信する。テキスタイル事業はこの間、天然繊維を中心とする多様な国内産地とメンス、レディースの品質なカジュアル素材を開発し、約600マークの常時在庫と一反から販売する機能を確立。OEM事業は、中国を拠点にベトナムまで広がる協力工場を生産ネットワークを構築し、素材調達から一貫した取り組みで、スポーツ系やカジュアル系ブランドに販路を拡大した。

両輪の事業が軌道に乗り始め、創業から16年3月期まで黒字を継続するなど経営基盤が安定。「ブランドの要望を開発に反映し、素材調達に苦勞する詳細アパレルやデザイナーブランドにも寄り添う姿勢が評価された」（川越浩治社長）とし、今年4～9月も増収増益で推移している。

60周年を節目に、化合織まで視野に入れた独自素材の開発や製品提案を重視し、1月の大阪

を抱え、ラッキータックスなどを統括する会社に加え、今夏設立したトーレ・ハイブリッド・ロード・タイランド（THCL）といったタイのグループ会社に機能を提供し、サポートする。「タイ経済は良くはないが成長分野や未来事業と呼ぶ新規事業に力を入れる」と野村社長。目指すは「ミニ東レ」だ。成長

展、2月の東京展でアパレル市場の深耕を強める。素材輸出事業の拡大や太陽光発電事業の本格化、産学連携の強化も見すえ、役員世代交代を図りながら若手の育成に力を注ぐ。

小松精練は下期以降、ユニフォームやトラックフォーマルといった新分野の開拓に力を入れる。ファッションやスポーツなど既存分野が苦戦を強いられる中、引き続き海外販売を強化すると同時に国内でも薄着だったゾーンを攻める。また、製造改革によるコスト軽減、生産性向上にも継続して取り組む。

同社の今上期（4～9月）の連結売上高は、主力のファッション向けが前年同期比4・2%減、スポーツが15・5%減とな

カーペット用で「テンセル」

防カビ性や制電性など

オーストリアのセルロース繊維メーカー、レンチンググループは、カーペット用の「テンセル」を開発した。ベッドリネン分野での実績を受けて、インテリア分野の柱であるカーペット用途を開発する。

同グループは寝装用では、マットレスとマットレス側地向けの「トップパー」からナイトウェアまでテンセルの販売を増やしている。

カーペット用テンセルは、標準タイプと比べ繊維が太い。一般的にカーペット用は太く長い繊維が適するとされており、これに対応して太くした。

合繊系カーペットの水分含有率は1%程度。テンセルは13%

程度を含有する。これにより室内空間では適度な吸湿・放湿が保たれる。壁や窓に水分が蓄積しにくくなり、細菌やダニ、その他の生物が繁殖する温床になりにくい。結果的にカビの発生やカビ発生から起こる不快な臭いも防げるとしている。

さらに水分は一種の避雷器のように作用し、静電気の帯電を防ぐとする。

ウール系カーペットでは、テンセルにウールのように虫が食べるたんぱく質を含んでいないため、天然防虫性があるとする。ウール系カーペットは、虫害防止のために化学薬品で処理するが、これも必要ないとして

海外販売強め国内掘り起し

り、9・8%増と好調な中東民族衣装やメディカル関連を除き衣料、資材ともに減少した。生産数量ベースでは5%減で5年ぶりに180万匹を割り込んだ。

販売面では国内の市況低迷のダメージを受ける。ファッショ素材は海外が健闘した半面、国内は委託、自販ともに苦戦。スポーツは国内・海外ともに委託・自販いずれも苦戦した。これにより、全社売上高は180億9000万円（6・2%

日本シリーズ優秀選手にオーダースーツ贈呈

御幸毛織は、プロ野球「日本シリーズ2016」で優秀選手に選ばれた北海道日本ハムファイターズのアンソニー・バース、西川遥輝、中田翔の3選手に同社製オーダースーツ（仕立て上がり30万円相当）を贈った。

同社は日本野球機構からの要請により、78年から現在まで39年間、日本シリーズのMVPや優秀選手を表彰してきた。57年から

減）となったが、利益面では営業利益6億8300万円（76・8%増）など各段階で増益。ポリ、フル生産に戻す。製造改革で生産復さける計画で、上



こるどん社長

川村友美さん



10月1日付で社長に就任した。こるどんは創業100年を迎えた組みひもメーカー。後藤百合子前社長が20年前から改革を進め、安定基盤を確立した。それだけに「責任の重さを痛感する。前社長は簡単に超えられるような人ではない。自分らしさを出しながら、自分ができる何かを付加していきたい」という。

実家は岐阜の組みひもメーカーの川村製紐。幼い時から組みひもに接し、愛着を感じる。こるどんと川村製紐の交流は深く、今でも共同企画などを展開する関係。そ

世界を視野に独自の商品を作る

んな縁もあって、学卒後、修行のために入社した。生産現場に、東京支店の立ち上げに関わり、後藤前社長身近に見てきた。企画、独自の仕組み作りで細心な方策は「学卒の興味も尽きなかつた。こるどんは原料から3000品種の商品庫して、小ロットで即知制を持つ。一方では、かす生産機械もオリジナル。ラッピングや新市場に向けた商品開発も進んでいる。

「お客さんから教えることもたくさんある。に心えながら、世界でような企業を作り上げたい」と抱負を語る。